

世界風博物館東近江大風会館(説明・見学)〈11:00~11:30〉

↓

道の駅 あいとうマーガレットステーション(昼食)〈11:45~12:45〉

↓

東近江総合医療センター(説明・見学)〈13:00~16:00〉

↓

滋賀医科大学(解散)〈17:00頃〉

↓

瀬田駅(希望者ありの場合)

3/24(木)八日市ロイヤルホテルでの交流会日程

17:30~18:30 交流会〈第1部〉講演/意見交換等

講演「三方よし研究会について学ぶ」

小串医院 院長 小串 輝男 先生

丸山薬局 代表 大石 和美 薬剤師

18:45~20:45 交流会〈第2部〉学生報告会/懇談/会食

20:45~ 学生交流会

里親学生支援事業としての5回目の卒業生を送り出しました

2016年3月16日

平成28年3月10日(木)に平成27年度滋賀医科大学の卒業式が挙行され、里親学生支援事業としては、5回目の卒業生(医学科16名)を送り出しました。

卒業する学生達が、それぞれの新しく進む道で活躍し、また、今度は自分たちが里親となり、後輩たちを支援してくれればと期待しています。

写真撮影は、医師国家試験説明会前に集合し、里親学生支援室員が卒業生を囲んで撮影を行いました。



学内教職員向けFD・SD研修会を開催しました

2016年3月11日

「医学教育における『態度教育』」

日時:平成28年3月2日(水)午後5時30分～午後7時00分

講師:岐阜大学 医学教育開発研究センター センター長 藤崎 和彦 先生

会場:看護第1講義室(看護学科棟1階)

医学教育の専門家であり岐阜大学医学教育開発研究センター長として活躍されておられる、藤崎 和彦先生をお招きし、里親学生支援室と認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構との共催でFD・SD研修会を行いました。

藤崎先生からは、アウトカム基盤型教育に基づいて取り組まれている岐阜大学医学部での態度教育の方法等について具体的にご講演をいただき、その後、質疑応答を含めた意見交換が行われました。

約60名がご出席いただき、学外からも滋賀県内看護師養成学校の関係者や里親の方々もご出席いただきました。

ご多忙の中、多数ご参加いただきまして、ありがとうございました。



宿泊研修における交流会のご案内(3月24日開催)

2016年2月23日

「里親」・「プチ里親」にご登録いただいている皆様方へ

滋賀県で働いておられる医師・看護師・保健師・助産師の皆様方へ

里親学生支援室では、3月24日(木)・25日(金)に東近江市・日野町方面で宿泊研修を実施します。

3月24日の夜には、里親・プチ里親の方々や地域で勤務されている医師・看護師・保健師・助産師の皆様と参加学生との交流会を下記のとおり行いますので、是非ともご参加ください。

参加お申し込みの場合は、①第1部・第2部のいずれからご参加のご予定であるかと、②住所、氏名、連絡先等を電話・FAX・メールで3月11日(金)までに里親学生支援室へお知らせください。

また、ご多忙とは存じますが、開始のそれぞれ5分ほど前までには会場にお越しくださいませう、お願いいたします。

記

1. 日時: 平成28年3月24日(木)

第1部 講演・意見交換 午後5時30分～午後6時30分

「三方よし研究会について学ぶ」

小串医院 院長 小 串 輝 男 氏

丸山薬局 代表 大 石 和 美 氏

第2部 学生報告会・懇談・会食(飲料はノンアルコールでの提供)

午後6時45分～午後8時45分 の予定

2. 会 場 八日市ロイヤルホテル

東近江市妙法寺町690 (TEL)0748-24-0111

〔問い合わせ先〕

滋賀医科大学 里親学生支援室

077-548-2802

E-mail satooya@belle.shiga-med.ac.jp

1月13日に第7回「卒業後の自分を考える」連続自主講座を開催しました

2016年2月17日

小児科領域のお話を聞きたいという要望により、1月13日にクリエイティブモチベーションセンターにおいて講師に、阪上 由子医師(滋賀医科大学小児発達支援学講座・特任助教、滋賀医科大医学科19期生)、中村 美智 看護師(滋賀医科大学医学部附属病院看護部 NICU/GCU 6年目看護師、滋賀県立総合保健専門学校卒業)、西澤 嘉四郎医師(近江八

幡市立総合医療センター副院長、滋賀医科大学医学科3期生)をお迎えし、お話を聞かせていただきました。

阪上由子先生からは、子どもたちの命と健康を支える「メンタルヘルス」を中心にお話いただきました。

・我が国の児童・思春期をめぐる精神保健の歴史は、戦後の戦災孤児の養護から始まり、発達障害、虐待へとピククスが変化していて、発達外来の診察では、虐待症例などの事例検討会等、関係機関との連携を要するケースが年々増えています。

・小児科では「成長+発達=発育」という視点で子どもの発育を評価していますが、神経発達障害 (Neurodevelopmental disorder) の多くは学童期以前に出現し、通常の発達と異なり、社会性・対人相互交流性コミュニケーションの課題をもつASD(自閉症スペクトラム障害)、不注意や多動衝動性が顕著なADHD(注意欠如多動性障害)、読み・書き・計算などの学習スキルに課題をもつLD(学習障害)などが含まれます。神経発達障害の診療においては、福祉や教育との連携が重要で、地域においては発達支援センターなどが中核となり、切れ目なく支援を継続する体制が作られつつあります。また、虐待の予防については妊娠早期からの母体のメンタルヘルスのマネジメントが重要であることが明らかになってきました。出産後に保護者の抱える「養育困難」をどうサポートしていくかが今後の課題です。



ご自身は、滋賀医大卒業後は大学小児科へ入局、結婚、大学院へ入学、出産と順風満帆な人生を歩んでこられました。が、家人の介護、ご自身の病気と問題が生じて大学院を中退された後、小児科(発達外来)での診療に従事され、小児科学会専門医、小児精神神経学会認定医、医学博士の学位を取得され、現在は小児発達支援学講座のスタッフとして勤務されています。

人生には色々な問題も生じますが、サポートしてもらえ職場の皆との和、お互い様という気持ちが大切とおっしゃっておられました。

中村美智先生からは、NICU・GCU病棟勤務看護師の仕事についてお話いただきました。

・滋賀県立総合保健専門学校卒業後、滋賀医科大学医学部附属病院に就職し、産婦人科病棟での勤務を希望されましたが、NICU(新生児特定集中治療室)・GCU(成長促進室)病棟の勤務となりました。

・当初は、赤ちゃんの小さいことにびっくりし、聞いたこともない疾患や慣れない看護技術に戸惑い、こんな特殊な部署で看護師として働けるかな?と思いましたが、勤務も6年目となります。

・ケアが予後に影響するので、赤ちゃんが出す小さなサインも見逃せず、勤務中は、常に緊張との戦いですが、小さく産まれた赤ちゃんが、日々成長していく姿や両親の笑顔が励みとなり、ここで看護師をしていて良かったと思います。



NICU・GUC病棟の看護師は、赤ちゃんの看護だけでなく、赤ちゃんのご両親の心のケアや、赤ちゃんの退院に向けての育児指導などご家族との関わりも大切とおっしゃってられました。

西澤嘉四郎先生からは、小児科医の現状と小児医療供給体制についてお話いただきました。

- ・小児科は、15歳以下の小児を対象とする診療科ですが、子供を診るだけでなく親も診る診療科です。
- ・現在、小児科医の高齢化が問題です。
- ・皮膚科、眼科、小児科では、医師の3割以上が女性医師です。
- ・滋賀県内の周産期医療体制の充実を図っているため、新生児の死亡は少なくなっています。
- ・小児救急医療は、新臨床研修制度(2004年)頃より病院で標ぼうしている小児科数が減少し小児科救急医療が難しいなか、小児科救急に関する課題を検討し小児科医療提供体制の構想を進めています。
- ・高度先進医療、臨床研究の推進に伴い、様々な新しい治療方法の開発が進められています。
- ・医療技術の進歩によって在宅での医療支援が必要な子どもや長期生存が可能となった難病の子どもは増加傾向にあり、小児科という年齢を超えた成人医療への連携と、次世代につなげる成育医療が必要になっています。



ご自身は、滋賀医大卒業後は大学小児科へ入局後、国立立川病院で勤務された後、滋賀医科大学大学院修了後は、滋賀県内の病院小児科医として勤務されています。

一度滋賀県外に出て働いたことで、滋賀県の良さや大学の温かみがよく判りました。色々な経験を積むことが大切とおっしゃってられました。

学生との懇談時に「学生が卒業までにやっておくべき事は、何ですか？」と質問した答えは、3先生とも「コミュニケーション能力を高めておくこと」でした。



【参加学生の声】

○滋賀県の地域医療体制の話が興味深かった。

○小児科から内科への引継ぎの難しさについてもう少し聞いてみたかった。

○NICUの赤ちゃんの小ささに驚きました。なるべく赤ちゃんは助けたい気持ちになります。しかし、助けると医療費がかかるという話も聞いたことがあり、どうすることが正解なのか・・・。

○これまで何となく小児科に行きたいと考えていただけで、小児科がどのような勤務状況なのかといった具体的な内容を知らなかったもので、そういった話を聞くことができ良かったです。また、NICUについてもどのようなものか知らなかったもので、考えたことがなかったですが、少し興味を持つことができました。今後も様々な自主講座に参加し、視野をひろげて、自分に本当に合った科はどこなのか考えていきたいと思います。

○とてもインフォーマティブな内容で勉強になった。小児科がいかにジェネラルな科であるかがよくわかった。少子化と小児科の関わりについても聞きたかった。

○小児科医は、子どもだけでなく、家族(親)までしっかりみて支えていくことが求められるのだということがよく分かりました。また、患者さん及びその家族を支えるするには、いろいろな職種のコラボが欠かせないのも再確認しました。やっぱり大切なのはコミュニケーション力なのですね。

平成27年度事業 FD(教育技能)研修会・意見交換会を開催しました

2016年1月29日

1月21日(木)アーバンホテル南草津において「地域里親学生支援事業」の一環である「FD研修会・意見交換会」を開催しました。

今回の研修会では、医療情報部 永田 啓教授から「変わる医学教育」と題して、講演いただきました。

講演では、国際基準に対応した医学教育のあり方について医学教育分野別評価基準に基づき話があり、参加された方々からも活発な意見が出されました。

引き続き和やかな雰囲気の中、出席者の自己紹介などを含め意見交換や懇談が行われました。昨年に引き続きペアで参加された里親・里子の姿もあり、より一層交流ができる良い機会となったようです。

お忙しい中、ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。



【開催案内】第5回滋賀県医師キャリアサポートセンター懇談会

2016年1月15日

日時：平成28年 2月4日(木) 17:00 ~ (1時間程度)

会場：滋賀医科大学医学部附属病院

医師キャリアサポートセンター室 (病院3階 第3会議室前)
講師： 国立病院機構 東近江総合医療センター 消化器科 (副院長)
滋賀医科大学 総合内科学講座 (地域医療支援) 辻川 知之 教授
テーマ： 『 地域医療について 』
参加費： 無料

医学生からの質問や相談もお受けします。
この機会に気になること、知りたいことをお聞きしてみませんか？
本学以外の医学生の方も大歓迎です。
皆さまのご参加をお待ちしております。

参加をご希望される方は下記の連絡先まで、学年・氏名をご記入の上
メールでお申し込みください。電話でも受け付けております。

詳細につきましてはHPをご覧ください。
<http://www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/>

[問い合わせ・申込先]
滋賀県医師キャリアサポートセンター
事務担当・相談窓口： 滋賀医科大学病院管理課
〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
TEL：077-548-3656
E-mail： ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp
担当：北川・左近田

プチ里親の方から勉強会のお知らせ(3月19日開催)

2016年1月8日

「彦根市の地域医療を守る会」第36回 勉強会

日時：平成28年3月19日(土)10:00~11:30

場所：彦根市立病院 医療情報センター

テーマ：たれでもできるお口の簡単健康予防

詳しくはこちらをご確認ください

→

「彦根市の地域医療を守る会」第36回勉強会

だれでもできるお口の簡単健康予防

内容 お口の中にはバイ菌がいっぱい、たくさんのお病気のもとがあります。
お口をきれいにし、お気にいしく暮らすお話し

講師 彦根市立病院 歯科口腔外科部長 山田 剛也氏

1 日時 3月19日(土) 10:00~11:30
2 場 所 彦根市立病院 医療情報センター
(北側入り口より入ってすぐ東側の建物)
3 参加費 100円 (お昼等の事務費に使います。)
メモ、鉛筆、お茶等ご持参ください。

日本のマザーテレサ牧山正子先生が、がソコソコにお越しくださいました。牧山先生のサイン入りのご本をいただきました。
「歌集する川村善子様
響取りのできる地域・まちをつくらう！」
感謝いっぱい、また力が湧いてきました。貴重な宝物になりました。

「母の恋人鈴木先生、私の恋人村上先生」の電子書籍が人気のため、本にしておりました。国立国会図書館において、国の宝として永代まで残ることになりました。皆様のおかげです。ありがとうございます。

「認知症のこれからを考える」のフォーラムも、たくさんの方々にご参加いただき大成功でした。ありがとうございます。

彦根市の地域医療を守る会代表 川村善子

プチ里親の方から勉強会のお知らせ

【開催案内】第7回「卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催します！

2015年12月21日

学生の皆さんへ

学生の皆さんが、医師や看護師としての自分の将来像を探すことを応援するために、第7回「卒業後の自分を考える連続自主講座」を、下記のとおり開催します。
「小児科領域」に携わるおふたりの小児科医師と看護師の先輩方に、経験談を語っていただきます。将来のロールモデルとなる先輩を困んで、和やかな一時を楽しんでください。

記

【演題】

「子供たちの命と健康を支える」
新生児看護から地域の小児科医療まで、先輩が語る！

【講師】

阪上 由子 医師
(滋賀医科大学医学部附属病院小児科特任助教、滋賀医科大医学科19期生)

中村 美智 看護師
(滋賀医科大学医学部附属病院看護部NICU/ GCU 6年目看護師、
滋賀県立総合保健専門学校卒業)

西澤 嘉四郎 医師
(近江八幡市立総合医療センター副院長、滋賀医科大学医学科3期生)

【開催日】

平成28年1月13日(水) 午後6時～8時

【場所】

リエイティブモチベーションセンター CMCホール

【その他】

夕方の時間帯なので、パンと飲み物を用意しますので、
事前に申し込んでいただくと助かりますが、当日参加も大歓迎です。
都合で途中からの参加も可能ですので、お気軽に申込みください。

【申込先】

認定NPO法人 滋賀医療人育成協力機構
TEL:077-548-2802 FAX:077-548-2803
E-mail:satooya@belle.shiga-med.ac.jp

第4回滋賀県医師キャリアサポートセンター懇談会が開催されます

2015年12月11日

日時：平成28年 1月20日(水) 17:40～(1時間程度)
会場：滋賀医科大学医学部附属病院
医師キャリアサポートセンター室 (病院3階 第3会議室前)
講師：滋賀医科大学 整形外科 医員 高田 大輔 先生
テーマ：滋賀医大病院の研修の実態、進路を決めた理由、現在の仕事
内容について
参加費：無料です。

詳細につきましてはHPをご覧ください。
<http://www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/>

〔問合わせ・申込先〕
滋賀県医師キャリアサポートセンター
事務担当・相談窓口： 滋賀医科大学病院管理課
住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
TEL：077-548-3656
E-mail：ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp
担当：左近田 北川

【ご案内】FD(教育技能)研修会・意見交換会のご案内

2015年12月3日

「里親」・「プチ里親」にご登録いただいているみなさま方へ

滋賀県に勤務されている 医師・看護師・保健師・助産師のみなさま方へ

里親学生支援室では、下記のとおり「里親学生支援事業」の一環としてFD(教育技能)研修会・意見交換会を開催いたします。

本会は、日頃お世話になっている皆さまと里親学生支援室員や里親事業登録学生との意見交換や交流の場としております。

寒さ厳しい頃とは存じますが、事業に対するご意見等を賜りたく、お時間のご都合がつかましたら、是非ともご出席くださいますようご案内いたします。

記

日時：平成28年1月21日(木) 午後6時から1時間30分程度

会場：アーバンホテル南草津 2階 コミュニティーホール

草津市南草津1丁目1番地5

TEL.077-561-0606 (JR南草津駅西口 徒歩1分)

講演：滋賀医科大学 医療情報部 教授 永田 啓 先生

テーマ 「臨床実習72週について」(予定)

その他：当日は軽食を用意いたします。

お申込みは、1月7日(木)までに [里親学生支援室](#)にご連絡ください。

11月6日に「第6回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました

2015年11月27日

11月6日に開催しました第6回「卒業後の自分を考える連続自主講座」では、講師に野村哲哉医師、池川貴子医師、上里佳那子助産師、村上節医師をお迎えし、各々の先生から次のような話を聞かせていただきました。

野村 哲哉 先生(南草津野村病院理事長・滋賀医大卒業2期生)

学生時代は心臓外科を目指していましたが、滋賀県では多くの心臓外科医を必要としないが産婦人科医は必要だったので、外科的なこともできると考え産婦人科医になりました。それでよかったと思っています。

県内に二つの産婦人科病院と助産院を経営し、今までに25000名の赤ちゃんを取り上げました。

今もって産婦人科医のみならず助産師も不足しているのが滋賀県の現状です。



池川 貴子 先生(滋賀医科大学医師臨床教育センター2年目研修医・滋賀医大卒業34期生)

学生時代から産婦人科医になりたいと思い、里親支援制度で野村先生に里親になっていただきました。大学卒業後は出身地の神戸に帰るつもりでしたが、野村先生や村上先生に滋賀や滋賀医大の先生方の魅力を改めて伺い、滋賀医科大学に留まる決意をしました。産婦人科の魅力は、「生まれる」瞬間、助けられるのは2人(母親と子供)であること、多くの治療法・手技があり、患者さんへの対応がそれぞれに違うことです。また、ロールモデルとなる女性医師が多くいることも魅力のひとつです。

大学病院の魅力は、先生方が熱心で優しい方が多く、多種多様な症例があり、周産期・婦人科腫瘍・不妊など多岐に渡って学べる環境に恵まれているということです。また、夜間も次の日を気にすることなくしっかり働けるよう「副直明け休み制度」も調えられており、働く環境にも恵まれています。



上里 佳那子 氏(滋賀医科大学医学部附属病院看護部MFICU 4年目助産師)

「いいお産」とは、どのようなお産だと思いますか？ 学生へ問いかけながら、出産前に胎児に奇形があることを告げられた父母の、出産前から赤ちゃんが亡くなるまでのわが子を思う気持ちの変遷と、その家族に寄り添った助産師の思いについて、参加者の心に迫る発表をいただきました。

赤ちゃん誕生を、状況によっては「おめでとうございます」と口に出せないことがあります。「おめでとうございます」言えるかどうかは、家族によります。「いいお産」とは、赤ちゃんを家族が迎え入れられるお産だと思います。

滋賀医科大学附属病院では、ハイリスクのお産について勉強しています。



村上 節 先生(滋賀医科大学産科学婦人科学講座教授)

精子と卵子の天文学的数字の割合で私たち一人ひとりが生まれてくることは奇跡です。

がん治療を行うと女性は閉経が早まり、子どもを持つ機会が奪われますが、現在では卵子を凍結でき、閉経後も子どもを持つことができるようになりました。この生殖医療情報は、医師のみならず、助産師、看護師、事務職員なども知っておかなければならないし、患者に提供する必要があります。滋賀医科大学では、滋賀がん・生殖医療ネットワークを構築し発信しています。



お話の後、学生からの質問に各先生が丁寧に答えいただき、次の話が印象に残りました。

- ・お産の基本は、通常分娩です。お産にリスクの「有る」も「無い」もなく全て同じです。
- ・臆病で心配があれば医師にすぐに報告してくれるような助産師になってほしいです。
- ・産婦人科医はハードワークとされていますが、現在60歳の野村先生は、患者さんが来てくれるうちは花であると思い、仕事のオン、オフを切り替え、どこでも眠れるように心がけておられます。

また、村上教授は、大学病院は地域の病院と違って、一人の患者さんを固定医師で受けもたず医師チームで受け持つことや、副直明け休み制度等を取り入れる等して、負担の軽減に努めておられます。

- ・どの先生も患者さんとの心温まるふれあいに一番感動したと、語っていただきました。

医療現場で勤務されている看護師の方々からの声も聞け、参加された学生・一般市民の方は大変有意義な時を持つことができました。



～参加された方からの声～

- ・たくさんの先輩の仕事に対する思いをきけて、とても頑張りたい気持ちになりました。
 - ・医師・研修医・助産師それぞれの立場からの話がきけて、面白かったです。生命の誕生について見直す良い機会となりました。
 - ・妊娠・分娩・産後とつながっているが、ひとつひとつの経過が奇跡なのだと改めて感じました。患者さんが中心にあり、患者さんにとっての良いお産を手助けできる助産師になりたいと私も思います。
 - ・感動しました！出産ってキセキ！
 - ・産婦人科の先生方のやりがいや聞いて刺激になりました。これからの医学の勉強が非常に楽しみになりました。
 - ・違った立場にいる4人の先生方からお話を聞くことができ、とても参考になりました。ドラマでコウノドリを見ていますが、現場で直接働いていらっしゃる人の言葉はドラマよりもずっと感動的で「奇跡のすぐそばにいる」ということがひしひしと伝わってきました。また、いつもと違ってたくさんのスタッフの方がいらっちゃって、質疑応答において、様々な意見を聞くことができ良かったです。
 - ・産婦人科は「助けるのが1人じゃなくて2人！」という言葉が印象に残りました。
 - ・将来助産師を目指しています。今日のお話を聞いて、妊娠するということがまず“奇跡”で、そして生まれてくるということも奇跡なんだと思いました。人が誕生する瞬間に立ち会うことが出来るというのはすごく感動的だし、その産まれた子どもが大きくなってまた自分がお産をとらせてもらえることもあって、女性の一生に携わることが出来る仕事って良いなと思いました。
- これから、母性の実習や助産実習があり、大変なこともたくさんあると思いますが、今日のお話を聞いて楽しみにもなりました。
- ・「いいお産」というものが、必ずしも赤ちゃんの健康だけを意味しないということが心に残りました。
- 私は進路について、助産師を検討していますが、実際にゆきちゃんのような子のケースを扱うとしたら、どんな風に向きあえるのか、ご家族にどんな声をかけていいか戸惑うと思います。まだ少し時間があるので、後悔のない進路選択をしたいです。- ・普段なかなか聞けない、本当にリアルな部分をきけて、とても良かったです。質問しようと思っていたことを話してくださって、聞いていて楽しかったです。

また、ベテランの先生から若手の先生まで、幅広い年代の方のお話をきけて、色々な考えなどを知れて良かったです。

 - ・ゆきちゃんの話では涙が出そうになりました。ゆきちゃんのお母さんが亡くなったゆきちゃんをお風呂に入れてあげ、お父さんが上手に抱き上げた、というところに涙が出そうになりました。

今日の講座を聴いて、出産は本当に「奇跡」だと思いました。

産科の現場での実際のお話がとても興味深かったです。ありがとうございました。

 - ・助産師の学生です。

将来は産婦人科領域に就職しようと思っているのですが、滋賀医大で働いておられる助産師さんのお話を聞いて、とても良い機会になりました！滋賀県で働きたい思いが強くなりました。

 - ・非常に有意義な時間を過ごさせて頂きました。産科医療の現場に携わる方々からのお話を医師からだけでなく助産師の方々の立場から伺うことができ、来てよかったと思いました。産婦人科医が働く上での配慮があることがわかり、とても安心しました。実際に産婦人科医療に携わっている方のお話を聞くことができ、刺激になりました。
 - ・産科領域全体のお話を聞くことが出来良かったです。

現在の産科医療、生殖医療の進歩等、臨床の実態を知ることができたのは良い機会でした。モチベーションアップにもつながりました。

 - ・助産師を目指しています。本当に貴重なお話をありがとうございました。これからも継続してやって頂きたいです。滋賀県のお産を充実させていきたいです。

プチ里親の方から「認知症のこれからを考える」フォーラムのお知らせ

2015年11月9日

「彦根市の地域医療を守る会」第4回フォーラム

日時:平成27年11月22日(日)13:30~15:30(予定)

場所:大学サテライトプラザ・彦根

テーマ:「認知症の

これからを考える」

65歳以上の5人に1人が認知症になる時代。

住みなれたこの町で安心して暮らすために・・・

第1部 講演

明日からできる認知症対策

認知症介護指導者 元 滋賀県看護協会会長

赤沼 フサ枝氏

第2部 質問タイム

みんなで話そう

(質問タイム回答者については、チラシをご覧ください)

チラシをご覧ください⇒



第1部 講演

明日からできる認知症対策

認知症介護指導者 元 滋賀県看護協会会長 赤沼フサ枝氏

第2部 質問タイム

みんなで話そう

どうぞお気軽にご質問ください

質問タイム回答者

- 元 滋賀県看護協会会長 赤沼フサ枝氏
- 松木診療所 所長 松木 明氏
- 彦根市認知症 HOT サポートセンター 医療法人 湖葉会 野村 武司氏
- 彦根市医療福祉推進課長 速田 智之氏

参加無料
会場にて運営協力委員会にご協力いただける方は無料です。

平成 27 年

日時: 11月22日(日)

午後 1 時 30 分開演

午後 3 時 30 分終了予定

会場: 大学サテライトプラザ・彦根 彦根市大東町 1-7 アル・プラザ彦根 6F

彦根市の地域医療を守る会
彦根市の地域医療を守る会は医療者と病弱者が話しあわせていけるだけでなく患者も家族もそして病院や医師、行政も一緒に考えて認知症を乗り越えていくこともテーマに活動しています。毎月一回定例会として開催される勉強会には、様々な立場の職員の方が参加して交流しながら、地域で認知症の中で医療者としてみんなが学び合っています。住みなれたこの町で安心して暮らし続けていくために地域医療のあり方を多くの方と考える機会に繋がっています。

心強い支援の皆さんです!! 私たちは「彦根市の地域医療を守る会」を応援しています!!
秋山正子(白十字訪問看護ステーション統括所長)・井筒玄典(福井大学医学部地域プライマリケア講座・講師)・黒田由紀子(前滋賀県知事)・中川三郎(滋賀県立彦根高等学校)・角野文彦(滋賀県健康福祉部次長)・金子隆博(彦根市立病院院長)・市川新一(滋賀医科大学名誉教授)・このりょう(滋賀県)・林田和史(滋賀医科大学看護学支援課課長)・八田政尚(医療法人財団夕陽希望の社理事)・長濱啓祐(経済社中代)・中村伸一(おおい町名田庄診療所所長)・村上智彦(NPO法人ささえる医療研究所理事長)・森田洋之(朝日本ヘルシラーナラボ代表)

学園祭で地域「里親」ブースを設けました

2015年11月 4日

10月24日(土)～25日(日)に滋賀医科大学の学園祭(第41回若鮎祭)が開催され、里親学生支援室も、昨年と同様に福利棟の一角で、認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構との合同ブースを設けました。

ブースでは、宿泊研修や卒業後の自分を考える連続自主講座を中心とした活動ポスターの掲示や、宿泊研修の写真スライドの放映を行いました。また、機構広報誌「めでる」等の発行物を配布し、里親学生支援事業の取り組みを広く知っていただけるようPRに努めました。

両日とも気持ちの良い秋晴れの中開催することができ、たくさんの方にご来場いただきました。今年度入学した学生からは「宿泊研修に参加してみたい」などの声もきかれました。

ブースにお立ち寄りいただいた皆さま、ありがとうございました。



【開催案内】第6回「卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催します！

2015年10月27日

学生の皆さんへ

学生の皆さんが、医師や看護師としての自分の将来像を探すことを応援するために、第6回「卒業後の自分を考える連続自主講座」を、下記のとおり開催します。
今回は、産婦人科医師と助産師の先輩方から、リアル『コウノドリ』（現在TBS金曜ドラマ放映中）の世界についてお話しいたします。

記

【タイトル】

リアル『コウノドリ』の世界を知ろう
～毎日奇跡のすぐそばにいる私たちから君たちへ～
※『コウノドリ』「週刊モーニング連載中」「TBS金曜ドラマ放映中」

【講師】

野村 哲哉 医師(南草津野村病院理事長、滋賀医科大学医学科2期生)
池川 貴子 医師(滋賀医科大学医師臨床教育センター2年目研修医、
滋賀医科大学医学科34期生)
上里 佳那子 助産師(滋賀医科大学医学部附属病院看護部MFICU 4年目助産師、
滋賀県立大学人間看護学部人間看護学科卒業)
村上 節 医師(滋賀医科大学産科学婦人科学講座教授、東北大学医学部卒業)

【開催日】

平成27年11月6日(金曜日)午後6時～8時

【場所】

滋賀医科大学クリエイティブモチベーションセンター CMCホール

【その他】

夕方の時間帯なので、パンと飲み物を用意しますので、事前に申し込んでいただくと助かりますが、当日参加も大歓迎です。
将来のロールモデルとなる先輩を囲んで、和やかな一時を楽しんでください。

【申込先】

認定NPO法人 滋賀医療人育成協力機構(里親学生支援室内)
TEL:077-548-2802 E-mail:satooya@belle.shiga-med.ac.jp

【ご案内】学園祭での地域「里親」ブース設置について

2015年10月15日

里親学生支援室では、学園祭(若鮎祭)期間中に地域「里親」ブースを認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構と合同で設け、事業の紹介や活動内容等をご覧いただける写真等の展示を行います。

お時間のご都合がございましたら、是非お越しください。

ブース開設時間 日時 : 平成27年10月24日(土)12:00～17:00
10月25日(日)10:00～16:00
場所 : 滋賀医科大学 福利棟1F

里親学生支援会からのお知らせ 10/24(土)・25(日)

学園祭(若誌祭)での地域「里親」ブース設置のご案内

地域「里親」学生支援事業とは??

将来地域(滋賀)での医療活動を志す医学生を、地域で活躍する医師・看護師・助産師・保健師や地域住民が「里親」・「7千里親」となって支援することで、地域医療にたずさわる医療人として養成し、深刻化する地方の医師不足・看護師不足の解決をめざすための事業です!!

どんな活動をしているの?

里親事業として4回目の卒業生26名を送り出し、現在58人の学生に対して里親が69人、7千里親が14人登録いただき、里親の方々にはメールなどを通じて学生と交流していただいています。また、里親・7千里親・教職員は学内外を問わず学生支援のための研修会を実施し、滋賀の医療の現状についての知識を共有する機会を設けています。3月には長浜市方面、8月には湖西地域方面への一泊二日の宿泊研修を認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構との協同事業として実施し、学生たちには地域医療の現状や歴史・文化等を学んでもらいました。

今後の予定は?

1 月...FD研修会(教育技能研修会)・意見交換会(里親・7千里親・教職員)
3 月...東近江市・日野町方面での宿泊研修 などなど...

里親としてご協力いただける方、随時募集中!!

若誌祭期間中

<http://www.shiga-med.ac.jp/wakaayu/>

<10/24(土)・25(日)>

左記の矢印の場所に、認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構と合同でブースを設けておりますので是非お越し下さい!!

宿泊研修などの活動内容を展示しております!

5 福利棟 1F

↑↑詳しくは 下記問合せ先まで ↓↓

(問合せ先) 滋賀医科大学 里親学生支援会
TEL 077-548-2802 FAX 077-548-2803
Eメール:safuoya@belle.shiga-med.ac.jp [http:// safuoya.shiga-med.ac.jp/](http://safuoya.shiga-med.ac.jp/)

プチ里親の方から勉強会のお知らせ(11月21日開催)

2015年10月1日

「彦根市の地域医療を守る会」第34回 勉強会

日 時: 平成27年11月21日(土)10:00~11:30

場 所: 彦根市立病院 医療情報センター

テーマ: 住み慣れた彦根で最期まで過ごすために
~在宅医療・福祉の連携と推進について~

詳しくは、こちらをご覧ください⇒

「彦根市の地域医療を守る会」第34回勉強会

♡住み慣れた彦根で最期まで過ごすために
~在宅医療・福祉の連携と推進について~

内容 誰もが安心して住み慣れたまちで最期まで過ごすために大切な地域包括システム。今回は在宅医療・福祉の連携とその推進について、今般報告を取り組んでいることをお話しします。

講師 彦根市医療福祉推進課 課長 渡田智之氏
彦根市医療福祉推進課ソーシャルワーカー 藤井雄祐氏

1 日時 11月21日(土) 10:00~11:30
2 場所 彦根市立病院 医療情報センター
(お昼入りロリ入ってすぐ東側の建物)
3 参加費 100円 (講師等の事務費に使います。)
メモ、お便りお待ちしております。

守る会は全国の会や有名な先方とつながっています。あるので、資料作り大塚や西田議員、長谷川議員、市会議員の先生方や官民の身ななご協力をお願いして実現することができました。

彦根、彦根市長市議員からお声がかり頂きまして行ってきました。私の様に参加が少なかったのも感謝していただき、次回が楽しみです。

また、まねのきないボランティアの会を拝見いたしました。これも皆様のご協力のおかげです。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

彦根市の地域医療を守る会代表 川村香子

9月の学生会本部報告よりお便りありがとうございます

湖西地域方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました

2015年9月9日

8月24日(月)・25日(火)に、湖西地域方面(高島市)を訪問させていただいた平成27年度夏の宿泊研修には、里親登録学生を含む本学学生15名(医学科14名、看護学科1名)と自治医科大学生1名が参加されました。

24日(月)1日目

滋賀医科大学を出発し、浜大津港近くの大津赤十字病院を左手に見ながら約40キロメートルの道のりを経て、今回の研修の地である高島市内へ向かいました。

① NPO法人元気な仲間訪問

平成27年4月1日にオープンされた、真新しい小規模多機能型居宅介護施設の見学をさせていただきました。

その後場所を変え、NPO法人元気な仲間理事長 谷仙一郎氏から、法人設立の経緯と、高齢化率31.7%の高島市で、行政に任せるばかりではなく、住民同士が支え合い、援助できる人(まかせて会員)と援助を求める人(よろしく会員)という形で、生活での困りごとを会員同士が助け合う相互扶助の取り組みについてお話をいただきました。



② 地域見学(藤樹書院)

中江藤樹の住居跡・講堂跡である藤樹書院を訪問し、江戸の儒学者 中江藤樹の生涯や教えについての説明を聞きました。



③ 高島市民病院訪問

湖西地域の中核病院である高島市民病院を訪問させていただきました。

高山病院長から湖西地域における高島市民病院の概要と役割や、2年後には総合診療科を開設する将来への展望についてお話をいただきました。

その後、院内救急施設、ヘリポートや病棟、また地下にある免震設備などを見学させていただきました。



④ 交流会

夕方は、宿泊先の今津サンブリッジホテルにおいて交流会を開催しました。

交流会第1部では、高島市健康福祉部健康推進課 課長 清水 勝徳氏から「高島市の概要と地域医療について」、朽木診療所 所長 倉田 佳彦氏から「地域で学ぶ地域医療～朽木診療所に赴任して～」と題してご講演いただきました。

交流会第2部では、訪問先の関係者の方々や地域の方、里親の方々もご参加いただき、和やかな意見交換、懇談の場となりました。



25日(火)2日目

① 地域見学(朽木溪流魚センター、興聖寺)

あいにくの雨模様の中、朽木溪流魚センターへ向いました。

溪流魚センターは朽木のメインストリートから、脇道を30分ほど入ったところにあります。

その先にある高島市民病院平良出張診療所や、その奥の高島市民病院針畑出張診療所への道は、バスでの通行が不可能で、残念ながら訪問することはできませんでしたが、その地域に診察や介護に出向かれる、朽木地域の医療従事者の実情を知る良い機会となりました。

その後、朽木氏の菩提寺である興聖寺を訪問し、住職からお寺の歴史についてのお話を伺いました。



② 高島市国民健康保険朽木診療所訪問

旧朽木村唯一の医療機関である高島市国民健康保険朽木診療所を訪問し、倉田所長の案内で、昨年5月に木造で新築された診療所を見学させていただきました。

医師1名、看護師2名、事務員2名の診療所では、看護師や事務の方の役割が大きいこと、全ての医療機器の操作は医師が行っていること、診察ではインターネット回線を用いて、総合病院での検査結果などの診療情報を診療所で閲覧できる「びわ湖メディカルネット」の利用や、県医師会の在宅療養システム「淡海あさがおネット」などを利用している等のお話をきかせていただきました。



今回も、地域の方々をはじめたくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、地域医療について学び多い研修となりました。

この場をお借りして、ご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

7月15日に「第5回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました

2015年9月 9日

7月15日(水)午後6時から滋賀医科大学教職員ホールにおいて「第5回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

講師には、角野文彦先生(滋賀県健康医療福祉部 次長、医師・滋賀医科大学医学科6期生、里親)と、糸山めぐみ先生(訪問看護ステーションオリーブ 所長、看護師)をお招きし、滋賀県の保健医療政策に関わっておられる角野先生から、行政医師の仕事とやりがいについて、また、昨年 近江八幡市に訪問看護ステーションオリーブを開設された糸山先生には、在宅医療(高齢者だけでなく精神、障害児者も含めた)における訪問看護師としての苦勞とやりがいについてお話をいただきました。

あいにく試験前のために学生3名の参加となりましたが、両講師を囲んで和気あいあいとした中で、本音を話し合える会となりました。

ご多忙の中、滋賀医科大学までお越しいただきました角野先生、糸山先生有難うございました。



○医学科3年生

県レベルでの医療行政のお話など、普段聞けないしあまり知らないことについてたくさん聞けて、とても貴重な体験になりました。

実際の医療現場におられる糸山さんと、行政の立場から医療環境をつくる角野先生と、大学で研究、教育の立場から大局的に医療を分析する埴田先生の三人が、それぞれの立場からお互いを尊重しつつ、良い医療をつくるための輪を生み出している印象を受け、医療に直接的に携わる以外の方法でも、人の健康を守り高めることができるのだなと感じさせられました。

○医学科2年生

保健所に勤めておられる先生のお話ということで、どのようなことをお話し頂けるのかと期待を持って参加しました。お話し頂いた内容は、まるで戦国時代の軍師のような仕事ばかりで、お話を伺っていて大変面白いものでした。

○看護学科4年生

- ・イメージしにくい行政における医師の役割がよくわかりました。
- ・地域の病院再編などにも関わっておられることを、初めて知りました。

プチ里親の方から勉強会のお知らせ(9月19日開催)

2015年8月14日

「彦根市の地域医療を守る会」第33回 勉強会

日時: 9月19日(土) 10:00~11:30

場所: 彦根市立病院 医療情報センター

テーマ: 「新たな救急医療体制について」

「警察からのお知らせ」

☆ 詳しくは、こちらをご覧ください⇒⇒

「彦根市の地域医療を守る会」第33回勉強会

♡ごあいさつ

彦根市消防本部 吉村正樹消防長

♡新たな救急医療体制について

内容 彦根市消防本部の救急の現状
救急ドクターヘリ
救急車の適性利用について

講師 彦根市消防本部救急隊隊長 管理部長 門西貴則氏

♡警察からのお知らせ

記

1 日時 9月19日(土) 10:00~11:30

2 場所 彦根市立病院 医療情報センター
(北朝入り口より入ってすぐ東側の建物)

3 参加費 100円 (印刷等の事務費に使用します。)
メモ、鉛筆ご準備ください。

警察の皆さんが地方の助けで、守る命は9号車に入りました。
感謝申し上げます。ありがとうございます。
緊急ヘリで緊急出発の救急隊員様のご快答に付てきました。ちよとお
知り合いでたくさん情報をおいただきました。スピードは最大の付加価値とお
っしゃっています。病院も設備も改善され、人災急患の積極的で地方創生を
なされています。
今後も自みされたこのまちで、元気に安心安全に暮らせるまちづくりへついで
もお役にたてるよう、共に思いを馳せたいと思います。
守る命の心をつなぐのびとつ「消防などの予備隊の普及」ワンポイントのボ
の勉強も仲手から始っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
彦根市の地域医療を守る会代表 川村啓子

地域理解・交流事業「宿泊研修」日程決定(8月24-25日開催)

2015年8月13日

地域理解・交流事業「宿泊研修」日程

～湖西地域方面の医療と歴史・文化を学ぶ～

●8月24日(月)1日目

滋賀医科大学(出発)<8:30>

↓(近江大橋、浜大津、湖西バイパス経由)

NPO法人元気な仲間(説明・見学)<10:30~12:00>

(小規模多機能型居宅介護施設)

↓

とうじゅ
道の駅藤樹の里あどがわ(昼食)<12:15~13:00>

↓

藤樹書院跡(見学)<13:10~13:40>

↓

高島市民病院(説明・見学)<14:00~16:00>

↓(湖周道路経由)

今津サンブリッジホテル<16:45頃到着>(交流会・宿泊)

地元の方々・里親の先生方との意見交換、交流会

●8月25日(火)2日目

今津サンブリッジホテル(出発)<9:00>

↓

朽木溪流魚センター(地域見学)<10:15~10:45>

↓

こうしょうじ
興聖寺(説明・見学)<11:20~12:30>

↓

宝牧場 宝亭(昼食)<12:40~13:30>

↓

高島市国民健康保険 朽木診療所(見学)<14:00~15:00>

↓

滋賀医科大学(解散)<17:00頃>



瀬田駅(希望者ありの場合)

8/24(月)今津サンブリッジホテルでの交流会日程

17:30~18:30 交流会<第1部>

講演/意見交換等

講演

高島市健康福祉部健康推進課

「高島市の概要と地域医療について」

朽木診療所 所長 倉田 佳彦氏

「朽木地域における診療活動について」(仮題)

18:45~20:45 交流会<第2部>

学生報告会/懇談/会食

20:45~ 学生同士交流会

宿泊研修における交流会のご案内(8月24日開催)

2015年7月31日

「里親」・「プチ里親」にご登録いただいている皆様方へ
滋賀県で働いておられる医師・看護師・保健師・助産師の皆様方へ

里親学生支援室では、8月24日(月)・25日(火)に
湖西地域方面で宿泊研修を実施します。

8月24日の夜には、里親・プチ里親の方々や地域で勤務されて
いる医師・看護師・保健師・助産師の皆様と参加学生との交流会を
下記のとおり行いますので、是非ともご参加ください。

参加お申し込みの場合は、①第1部・第2部のいずれから
ご参加のご予定であるかと、②住所、氏名、連絡先等を電話・
FAX・メールで8月12日(水)までに里親学生支援室へお知ら
せください。

また、ご多忙とは存じますが、開始のそれぞれ5分ほど前
までには会場にお越しくださいますよう、お願いいたします。

記

- 日時: 平成27年8月24日(月)
第1部: 講演・意見交換 17時30分～18時30分
(講演: 高島市健康推進課
「高島市の地域と地域の医療・福祉について」(仮題)
朽木診療所 所長 倉田 佳彦氏
「朽木地域における診療活動について」(仮題)
第2部: 懇談・会食 18時45分～20時45分
- 会場: 今津サンブリッジホテル
高島市今津町今津1689-2 TEL: 0740-22-6666
JR湖西線「近江今津駅」徒歩15分(送迎あり)

〔問い合わせ先〕
滋賀医科大学 里親学生支援室
077-548-2802
E-mail satooya@belle.shiga-med.ac.jp

里親登録学生と里親学生支援室員の顔合わせ(懇談会)を行いました

2015年7月6日

6月23日(火)の昼休みに、里親登録学生(新規登録学生5名を含む)と里親学生支援室
員との懇談会を、CMC(クリエイティブモチベーションセンター)ホールで開催しました。

まず、初めに埜田室長から里親学生支援事業の概要についての話があり、室員や事務ス
タッフ、学生の自己紹介が行われました。その後、今年度の事業計画について具体的な説明
がありました。学生には、「里親の先生方は、学生からの連絡はうれしく思っているし、気にし
てくださっているの、忙しくすぐに返信が無い場合もあるかもしれませんが、一報を入れてく
ださい。また、何か希望があれば言って欲しい、研修にはより多くの学生が参加して欲しいの

で地域医療に興味を持っている友人やクラブの後輩なども誘って参加して欲しい」との呼びかけがありました。

今後の事業予定

- 1 学生と里親とのマッチング(新入生5名)
- 2 第5回「卒業後の自分を考える」連続自主講座(7月15日 18時～)
- 3 夏期宿泊研修 湖西方面(8月24日～25日)
- 4 里親・プチ里親との研修会・意見交換会(1月)
- 5 春期宿泊研修 東近江市永源寺・蒲生郡日野町方面(3月)

その他、決定次第、随時メール等で案内します。



- 4月～3月 里親学生支援室において本取組の実務を行う。
- 4月～5月 新入生に対して、参加登録の募集を行う。
- 5月 参加登録希望学生の属性や希望事項等の調査を行う。
- 6月 学生と「里親」をマッチングさせる。
- 6月 里親学生支援室員と学生との懇談会を行う。
- 8月 県内出身自治医大同窓会主催のワークショップに参加する。
- 8月 夏期宿泊研修を実施する。
(滋賀医療人育成協力機構と協同で実施)
- 10月 若鮎祭(学園祭)開催時に滋賀医療人育成協力機構と協同で『地域「里親」ブース』を開設し、取組事業のPRを行う。
里親、プチ里親と学生との交流の機会とする。
- 10月～11月 教職員向けのFD研修会を開催する。
(滋賀医療人育成協力機構と協同で開催)
- 11月 医学科学士編入生に対して、参加登録の募集を行う。
- 1月 「里親」「プチ里親」向けのFD研修会・意見交換会を開催する。
(滋賀医療人育成協力機構と協同で開催)
- 3月 春期宿泊研修を実施する。
(滋賀医療人育成協力機構と協同で実施)
- 3月 次年度の計画をたてる。

2014年度 活動実績

2015年4月24日

- 平成26年 4月 1日 里親学生支援室(継続設置)における新年度業務を開始
- 平成26年 4月 7日 1年生に対し、新入生オリエンテーションや医学概論Ⅰ
～5月上旬 などの時間を利用してプロジェクトの説明
パンフレットを配布して参加学生を募集
- 平成26年 4月18日 里親学生支援室だより No.12発行
- 平成26年 4月23日 卒業後の自分を考える連続自主講座(第2回)を
滋賀医療人育成協力機構と協同で開催 参加者数 24名
- 平成26年 6月13日 里親学生支援室員と参加希望学生との懇談を実施
支援対象学生の確定・支援内容の具体的説明・学生の
属性や希望事項等の調査
- 平成26年 6月20日 里親学生支援室会議開催
- 平成26年 7月11日 里親バンク登録の「里親」と参加学生とのマッチング決定
- 平成26年 8月28日～29日
宿泊研修「近江八幡市方面の医療と歴史・文化を学ぶ」を
滋賀医療人育成協力機構と協同で実施
参加者数
学生20名(内滋賀県内看護師養成学校学生2名含む)
教職員11名(内機構職員2名含む)
- 平成26年 9月17日 里親学生支援室だより No.13発行
- 平成26年10月25日～26日
若鮎祭(学園祭)開催時に「里親学生支援室ブース」を
滋賀医療人育成協力機構と合同で開設
- 平成26年10月22日 里親学生支援室会議開催
- 平成26年11月 6日 卒業後の自分を考える連続自主講座(第3回)を
滋賀医療人育成協力機構と協同で開催 参加者数 22名
- 平成26年12月 医学科学士編入生に対して、参加登録の募集を行う
- 平成27年 1月15日 里親学生支援室会議開催
- 平成27年 1月22日 卒業後の自分を考える連続自主講座(第4回)を
滋賀医療人育成協力機構と協同で開催 参加者数 13名
- 平成27年 1月29日 里親・プチ里親対象の「FD研修会・意見交換会」を開催
参加者数 25名
- 平成27年 2月18日 FD・SD研修会「講義・実習中におけるスマートフォン・携帯電話等に関するFD・SD研修会」を滋賀医療人育成協力機構と
協同で開催 参加者数 48名
- 平成27年 3月18日～19日
宿泊研修「長浜市方面の医療と歴史・文化を学ぶ」を
滋賀医療人育成協力機構と協同で実施
参加者数 学生9名
教職員10名
(滋賀医療人育成協力機構職員2名、滋賀県
医師キャリアサポートセンター職員1名含む)

長浜市方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました！

2015年4月 1日

3月18日(水)19日(木)に長浜市方面において、認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構と協賛で、平成26年度春の宿泊研修を実施しました。本研修には、里親登録学生を含む本学学生9名(医学科6名、看護学科3名)が参加しました。

18日(水)①長浜市内見学

長浜市の中心部の観光地にある曳山博物館の講堂にて、「滋賀県長浜市の地域医療」として長浜市健康推進課の藤居課長から長浜市の地域医療の現状と課題についてのお話を伺いました。その後、日本三大山車祭の一つで、国の重要無形民俗文化財に指定されている長浜曳山まつりの銚などが展示されている曳山博物館内を見学し、続いてボランティアガイドの案内で大通寺などを見学しました。



②長浜赤十字病院訪問

午後からは、長浜赤十字病院の訪問させていただきました。楠井副院長から長浜地域における長浜赤十字病院の役割と概要の説明を、中村救急部長から、災害医療について東日本大震災での活動内容をおりませながら、DMATや救護班についてのお話をいただきました。その後、ヘリポートや院内救急部を中心とする施設を見学させていただきました。



③市立長浜病院訪問

市立長浜病院では、野田事業管理者からの挨拶の後、医学生と看護学生に分かれて院内を見学させていただきました。その後、本学卒業生の林老人・血圧内科部長や現在勤務している先輩医師や看護師の方々から市立長浜病院で働こうと決心した理由等のお話を聞かせていただきました。



④ 交流会

夕方は、宿泊先でもある長浜ロイヤルホテルにおいて交流会を開催しました。

交流会の第1部では、浅井東診療所 副所長 宮地純一郎氏からは、「○○力のちょっとまじめな話」として次の日に実施する現場見学をいかす3つの方法について、特別養護老人ホームふくら 看護主任 金森暢子氏からは「一人ひとりの 暮らしのカタチ 看取りのカタチ」と題して施設看取りと家庭医との連携についてご講演いただきました。



また、交流会の第2部では、訪問先の関係者の方々や地域の方、里親・プチ里親の方々など総勢14名の方にご参加いただき、各々の立場での地域医療についての役割や思いをお話いただき貴重な意見交換、懇談の場となりました。



19日(木)①浅井東診療所訪問

浅井東診療所では、学生たちは、事前に松井所長から提案されたプランの中から希望したコース(地域住民の方へのインタビュー、訪問看護ステーションの訪問看護に同行、施設(特養)看護師の仕事見学、診療所の外来見学、地域の薬局見学、地域散策)に分かれて、フィールドワークをさせていただきました。フィールドワークで得た内容を持ち帰り、学生たちは体験を発表することで振り返りの場を持つとともに、個々の体験を共有することができました。





②地域見学(渡岸寺等)

地域見学では、長浜市高月町の渡岸寺を訪問し、日本全国に7体ある国宝十一面観音の中でも最も美しいとされる観音さまを拝観しました。

最後に、滋賀県の最北端に位置し古くからへき地医療に取り組まれているという長浜市立湖北病院を見学し、帰路につきました。

今回もまた、地域の方々をはじめとして、たくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。